

枕草子抄

			和書門
	八	五	
	九	四	
一	三	四	
三	三	九	
冊	架	函	號類

庫	文	閣	内
三		八	和
三		五	
函		四	書
一		九	
七	三		
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和	8549
冊數	13	(7)
函號	203	95



Kodak Gray Scale

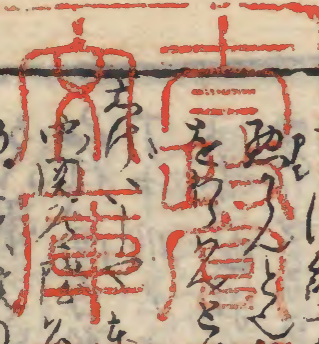
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



はくもふ 作物所

細流云金泥細工乃ふ

ありて拾ふ云作物

所在進物所西有別

當預熟谷良耐久

は別あり補せられ

はのすし動物おは

ゆれ多しやうし

細工のし時柄は

やうありて作れ

これらにいつあま

かひ足昔ききも

中に細工は異風

ありて時柄が

をわたりて

ありて

ありて

ありて

ありて

ありて

ありて

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

はくもふ乃別ありて作物所

紋也 唐文ハ唐織のこ

今ハお梅ハきざし

紅梅ハ十一月ハ二月と

三月のちと名所

んども二月十日の

これぞ

お梅ハ紅梅ハ

されどお梅ハ紅梅ハ

似合下しお梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

紅梅ハ紅梅ハ

これぞ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

女房乃とあめりけりて

なまへハ礼教子内

竹のかりうめ裳と

かけあがりしうめ

母されハ盛ハあて女

房乃裳ありとぞ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

お梅ハ紅梅ハ

今世の乃のゆく方
不しきく 國白殿
かりしし

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

右の白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方
を國白殿乃のゆく方

ありき... 正曆三年の...
 大丈道推の童を...
 彼大納言教重を...
 小の方貴子...
 東宮院...
 三條院...

けし... の...
 園白...
 園白...
 園白...

伊用... の下...
 中將...
 大納言...
 東宮...
 園坐...
 伊用...
 園坐...
 東宮...
 園坐...

誰... の...
 園白...
 園白...
 園白...

えれは子しちとていひ
あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

ましこしにせ
あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

教の信や
山井大納言 道頼也
右宮伊用云々の別殿
乃た是也 山井殿 三系
坊の乃た系極のあはれ
あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

官乃信くことわりとていひ
あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

あつらんちりくはけり
あまの皇子のせしむ
いふれはむねをさ
りしむあまの皇子
正暦年二月九日
私書にありしむ
れはむねをさ
えんしむ
是道とて事と初
いふ必むむとて
一系に乃たあはれ
入内りま

私記の御影御影事

侍臣之間撰撰事之人

供無定例皆着當色

袍謂之御徒今案此

人言多のまゝの直衣を

着て何れをいふをいふ

らるる人といふこと

内卷以てしり道隆公の

後子也頼親の内卷以

て右系系圖よりあり

ひり内侍のまじり

左の推頭時明の女

一系は保氏御後をいふ

てして保氏より日本紀を

ていふくもつりなれと

のまじりせぬてか

と日本紀の房といひ

人言も并人し

まじりといふのまじり

らるる人といふこと

あつてはあつたまじり

まじりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

朗詠 大庚嶺之樓

落誰同粉粧

細納言長谷推乃詩序

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

あつてはあつたまじり

まじりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

りりといふこと

キザキ

二月はこいり

そと正暦三年の比ぶ

わうーらうーらうー

かめーらうーらうー

あひらうーらうー

公仁のち、宰相中將の

人のとせのふらうー

公仁の相國頼忠

乃男忠漢の或人

宰相中將の故信

誰

は連多のや一海乃

人を誰がかりせ

とせわくとせわ

やよりありりーぶらうー

二月はこいり

くらわらうー

黒戸らうー

わうー

相中將のとあり

すー

とありらうー

あひらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

のせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

とせわらうー

春

源俊賢

の明公乃男

とせわらうー

忠實此書作之

ふ日乃さし

清徽経進をいふ
えひ乃をいふ

和名云半辟 衣名也
桃身葉葉云或物云

近代半辟以小緒結
之往昔之例以大緒二

節結之今世サ入
た亦今葉葉は種と

りよとありをい結
は生乃穀をい結

結之ついでついで
ありしついで

十二年の心
は碓の知事もいふ

中将よしくいせりかくらひ

らるるあま

ふ日乃ゆりじをいひ日とむひ乃

といわわらむ日々られ玉つひ人

乃あふ取乃固いゆりてうまれ

のゆりありありて
讀経六百卷と結

十二年乃山こもり乃
付とそり但山草織り

すまひひらひ
たふさやうひらわ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

あまのいひ
あまのいひ

人の力に頼るゝは
もろともあはれ
おぼしめされし
せしむるは
おぼしめされし
おぼしめされし

女院あやまらせ
三巻院也一巻院の池
母おき
おつきひりま
言乃はりしとありは
アすひ乃はり言は
まつりしとありは

あししと本と
あししと本と
あししと本と
あししと本と

人のあししと本と
あししと本と
あししと本と

ひらこめ かろ
全身 かろ
あししと本と

ちとく乃中のね
除月 かろ
あししと本と

油草 かろ
あししと本と

桃多葉 かろ
あししと本と

やとつを かろ
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

あししと本と
あししと本と

神あいの 神南徳森
はま今やうとていふ

こひ乃り 森
こゝろの森 山懐乃木
懐乃りやうとていふ
おろ本より

和月ついでり 是より
例乃り 拾文云金巻
長谷寺 拾文云金巻
二丈六尺十一面
和元亨 釋書云
は乃り乃り 古格
て再乃り乃り

和の聖お土思あり共
やと倍探のま

文選 六二謝靈運 類

萍 沈深 菰蒲 買淺
清 金葉集 和や
さうのよもあもさうの
いへ浅香に治せん
さうのよもあもさうの

六帖 尋 一松花
乃 懐乃り乃り乃り
と 懐乃り乃り乃り

湯 温泉乃り乃り
樽物志云凡水源有石
硫黄其泉則温
七久里湯 八云三信流
と 懐乃り乃り乃り

和乃り乃り乃り
懐乃り乃り乃り
と 懐乃り乃り乃り

あひ乃森 乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り

乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り

乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り

湯 乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り

乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り
乃り乃り乃り乃り乃り乃り乃り

あつこい本は下り
さうがたり葛藤

桐生まよふと云ふ
楊貴妃の形は
師のまよふも
あきとある

あつこい本は下り
さうがたり葛藤

孝のこゝろの
日善事父母為孝
堯舜之道孝弟而已

孝経云子日夫孝徳之本
也教之所由生也
孝のこゝろの
日善事父母為孝
堯舜之道孝弟而已

さうがたり葛藤

あつこい本は下り
さうがたり葛藤

あつこい本は下り
さうがたり葛藤

あつこい本は下り
さうがたり葛藤

孝のこゝろの
日善事父母為孝
堯舜之道孝弟而已

孝のこゝろの
日善事父母為孝
堯舜之道孝弟而已

やつれてあまのあまの
清衣よりかきえしとい
つたけし

と金巻のの巻と必
あつたれはあつたれ
ともの多しといふ

あをやまのあま
桃葉葉衣色異説
まの吹 巻の裏黄
け衣二月も用ひ
あり

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの
あつたれあまのあまの

ふさふさの足さし
ふゆとととととととと
へーい本ふふふふふふ
まのたすちの灯と
あはハイをきくぐぐぐ
おびりくけく
かけおひのさあや
橋まがこのやつせる
装束さふー

法師乃乃力まき
法師の宿傍のは師れ
まの宿まきくぬまふ
あまのくつふふふふ
さふー まは法師の
はのは師 我をまき
いさかかかかかか
まかりまきやゆ
まかり

西八系夕和名云極中
道可以注水之器也俗
用掬字所出未詳或
説云有柄半楹其内
故呼為半楹
既くは人ハタの坊
堂まのほの宿校
くら供乃人ハ若坊
へまらふ
ふさや乃持のま
誦經鐘也乃持乃經
をよむく原氏持舟
まのまきや乃かの
風まきまきまき
まきまきまきまき
我がありまきけ
我がまきまきまき
持の方まきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

これんととりをあらしく吐くわくべく
とわくぬませめくさわ力おかしき
色乃所まきまきまき
法師まきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

法師乃乃力まき
法師の宿まきくぬまふ
あまのくつふふふふ
さふー まは法師の
はのは師 我をまき
いさかかかかかか
まかりまきやゆ
まかり
まかり
まかり
まかり
まかり
まかり
まかり
まかり

今乃の坊まきまきまき
けがまきまきまきまき
乃まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

進退世辱凡の言大
あまそとくししり
くひのこゝろ

我のくさあま
こゝろのこゝろ
あまのこゝろ

あまのくさあま
あまのくさあま
あまのくさあま

あまのくさあま
あまのくさあま
あまのくさあま

ちんらうしん子あまのくさあま
こゝろのこゝろはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま

あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま
あまのくさあまはあまのくさあま

ぬきをきこむし
剛越之のむすねの孫
かきかききききききき
しらぬがう 湯作一
もくもくもく

こうくつねわらぶまの
女中の扇のわらわら
まのまのまのまのまの
別高の別高のまの
扇れ事とらやま同

さうくつねわらぶまの
直舟或は船をまのまの
や、橋、表白裏白
花押の表白裏白
はさくまのまのまの

さうくつねわらぶまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの

金鼓 和名
最勝 經云は童菩薩

花田ツラのまの
あなゆひのりりねのれをさうがさるる
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまのまの

備じは身入り。六月乃最勝講七月の相持節ありしも出居次第多座の

事あり。その乃のわあふ。出居乃座敷上あり。平圖お三番

まん乃やろ河海多後結乃器持。修法河開梨護魔あり。修法乃修

たかり乃あふ。和名云銀打金鏡也器也倍云銀治訛也。らららとらん

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

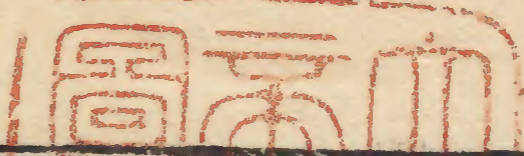
七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。

七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。七月乃一男。



我が身をばなすて
男の心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて

おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて

男の心を推察し
我が身をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて

おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて
おのれの心をばなすて

春腰おのれ

